



たてばやしリノベーションまちづくり 『おっ!!いいまっちい〜の兆しい』

館林市 経済部 商業観光課

館林市の中心市街地を歩くと、車の運転手から何だか視線を感じるがあります。なぜでしょうか。私がイケメンだからなのか。いや、それは違いました。答えは歩いている人が少数だからとでも目立つのです。群馬県は自動車保有率が日本一。そして、館林市はその群馬県全体の自動車保有率の平均を超えています。つまり、市民が簡単に郊外に出られる環境が日本一整っているのです。まちなかは人が歩かなくなり、シャッターを閉める店舗が増え、車窓から見えるように作られたテナント募集の大きな看板が目立つようになりました。人口減少をはじめ、全国的に抱える問題は似ていますが、車への依存度が高い館林市は中心市街地の衰退がより加速しています。このような地域の課題や中心市街地などの遊休不動産に光を射すのがリノベーションまちづくりです。今ある資源を生かして、まちに変化をもたらす、民と官が連携して、自分たちが欲しい暮らしをつくっていくことを目指します。

館林市には数年前からリノベーションまちづくりの兆しがありました。まちなかの倉庫が飲食店、家具雑貨店、レストランになり、織物工場がカフェに、そして古民家がビストロになりました。今ある古い建物を活かした店主こだわりの空間がまちに1つ、また1つ増えていく民間独自のリノベーションです。市内では徐々にリノベーションまちづくりの機運が高まり、商工会議所と館林市が連携して、(株)リノベリングの企画による講演会や昨年の12月にはリノベーションスクールを開催しました。



リノベの兆し(倉庫をリノベーションした店舗)



スクール ミーティング状況



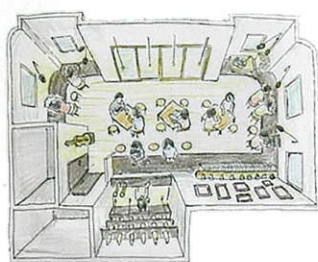


リノベーションスクールは実際の空き物件などを題材に事業計画を立て、未来を想像し、エリアの価値を高めていく取り組みです。今回は25名の受講生が参加し、本気でまちに向き合い、笑い合い、最後のプレゼンでは感動して涙を流す受講生も見られました。題材となった3つの物件はスクール後も受講生同士がつながり、着々と動き始めています。スクールで出会った受講生は、これからも館林市の明るい未来を一緒に考えていく仲間となって、強い絆で結ばれています。

今回のリノベーションスクールで題材となった3つの物件は事業展開に向けて、動き始めています。1つ目は「館林愛を語るパブリックハウス」、2つ目は「広大な空の下で映画を観るSORANOMON THEATER」、3つ目は「便利じゃないコンビニ」として、これまでにない価値を創造する提案がされています。まちの変化を自分ごとに捉え、まちの日常に楽しいコトを創造していく。こんな風に皆さんもまちづくりに関わることができます。リノベーションまちづくり、一緒にやってみませんか。おもしろいですよ。



まちの当事者として、館林に本気で向き合った受講生たち



スクールではこれまでにない価値が創造されている

最後に、「たてばやしリノベーションまちづくり」のFacebookページで情報を配信しています。是非、アクセスしてみてください。

